

キリスト教学校教育同盟と「遺愛の礼拝」について

11月23日(火)に東京の立教大学で、キリスト教学校教育同盟の100周年記念式典がありました。本校の高3の古川さんがロゴマーク部門で第2位の優秀賞を受賞し、この式典で表彰されました。

キリスト教学校教育同盟といってもほとんどの方はご存知ないと思います。高校3年生には指定校推薦で大学・短大へ進学しようとしている皆さんもいますが、指定校の大学の中に、キリスト教学校教育同盟の学校が含まれています。ICU、東京女子大学、明治学院大学、青山学院大学、関西学院大学、神戸女学院大学などがそうです。これらの大学は遺愛がキリスト教学校教育同盟に所属しているから指定校推薦が可能となっています。大学ばかりではありません。遺愛のように中学・高校・小学校も加盟しています。2010年5月現在、全国で37万8976人の生徒・教職員がキリスト教学校教育同盟に所属しています。

どうしてキリスト教学校教育同盟ができたかという、明治32年(西暦1899年)に日本政府が文部省訓令第12号というものを発令し、宗教系の学校に圧力をかけてきたからでした。学校で宗教教育を行うことを禁じ、もし礼拝などを続けるなら各種学校扱いとなり、大学への進学や徴兵を猶予されるなどの特典を失うことになりました。青山学院や明治学院の学長が他のミッション系の学校に協力を呼びかけながら、文部省へ一生懸命働きかけた結果、男子校は2年後に特権を回復できました。

それで、より協力関係を深めようということで、1910年ちょうど100年前ですが、男子校10数校で基督教教育同盟会を結成しました。女子校については3年後の大正2年(1913年)10月に、全国から20数校が東京の普連土学園に集まり「女子基督教教育会」を組織しました。もちろん遺愛も参加しています。後にこの2つの組織が合同しました。

遺愛はこの当時、キリスト教主義教育を守るために、礼拝を守るために各種学校を選び、相当苦労しました。遺愛は特権を回復するために、カリキュラムを整え、大正5年7月8日と大正6年2月24日の2度の文部省の視察を受け、その際には授業参観とテストも行われたようですが、それをクリアし、その年の4月に文部大臣指定の学校として認められ、キリスト教主義教育を行いつつ、大学への進学が許されるようになりました。その当時の文書を読むと、認められた際は、大喜びしたようです。

先日のキリスト教学校教育同盟の100周年の記念式典後のシンポジウムでは、青山学院の元理事長の深町正信先生が、キリスト教学校とは何か？その根本的、本質的特色は何か？と問うて、実にシンプルな答えをおっしゃっていました。それは「キリスト教学校とは礼拝する学校」ということです。その言葉は、実は15年前に遺愛学院理事長：赤城泰先生が講演で語ったものでした。遺愛は136年間それを守り続けてきたということをおぼえたいと思います。 2010年11月24日



古川さんの受賞の様子